

平成27年度 NPO 法人江戸連総会

開催日時 4月25日(土)・午後1時半～2時45分

会場 人形町ハロー会議室(人形町1-5-12 萬武ビル2階)

第一議案 平成26年度の事業報告と決算

1. 事業報告

NPO 法人江戸連も平成14年1月に発足して以来、12年間の歴史を積み重ねてきた。発足当初の会員数は10数人で、毎月の例会は有楽町朝日マリオンの小さな会議室(定員10数人)での講演会であった。その後平成16年から18年にかけて、日本橋老舗巡り・関東周辺の小江戸巡り・江戸の坂と史跡巡り・七福神巡りや落語・歌舞伎鑑賞など活動が多様化し、「江戸を歩く」「江戸を学ぶ」「江戸の芸を楽しむ」という今につながる活動スタイルができあがってきた。また、講演会場も会員数の増加に伴い、虎ノ門「集&友」(定員20数人)、品川宿交流館(定員30人弱)から現在の伊場仙ビル会議室(定員50人強)へと変遷している。

この間会員数は序々に増加し、現在は約80人になっている。

(1) 平成26年度の講の活動実績(別紙参照)

毎回概ね30～50人の参加で、講の内容は講演会5回、歴史散策5回、江戸芸能鑑賞2回という配分である。

26年度も、岡安顧問や白石広子さんの講演や大滝(花伝亭長太楼)さんの落語など会員が日頃研鑽している研究成果や持ち芸などを講の中で披露してくれた。今後もたくさんの会員が江戸連講の講師などに名乗りをあげて欲しい。

11月講は、江戸連として6年ぶり3回目の長崎歴史旅(島原・雲仙・大村)を実施した。日本におけるキリシタンの歴史や雲仙岳の災害史などを臨場感を持って学ぶことができた。一緒に旅に参加してくれた長崎楽会の岡夫妻には、公共団体・ガイド・宿など事前の綿密な根回しをして頂き、大変お世話になった。お陰様で、極めてディープな歴史旅を経験できた。

7月講の陣内先生の「二つの水都～ベネツィアと江戸」は、江戸連内で予てから一度は聴いてみたいテーマとしてあがっていたが、今回会員の水越さんのネットワーク力で実現できた企画である。これからも、会員の持つ幅広いネットワークを活用して、多彩な講師や面白い講の企画を実現して行きたいと思っている。

26年度は、5月講「江戸の水運」・10月講「安宅丸と増上寺周辺」・11月講「島原歴史旅」・1月講「日本橋七福神」・3月講「銀座の歴史」と歴史散策を5回開催したが、いずれも天気に恵まれた。取分け岡本先生の銀座の路地歩きは、近代的な銀座も路地裏から観察すると、江戸の痕跡を色濃く残していることを教えてくれた貴重な体験であった。

8月「歌舞伎鑑賞」も、江戸連の人気企画として定着した感あるが、今回始めてワンランク上の席を確保したが、大好評であった。担当の石垣理事の尽力に感謝する。

9月講の横本さんや12月講の小池さんなど若者が江戸連講に講師や演者として参加してくれたが、“江戸”は年寄りと若者を結ぶ共通のキーワードになるのではないかと考えている。

多くの参加者を集め大盛況だったのは、12月講の「江戸の芸尽くし」であった。投扇興、光田さんの大道芸、長太楼・小池さんの落語と楽しい催しとなった。企画に尽力してくれた、白石理事と投扇連幹事の方々に感謝する。

(2)「連内連」の活動

江戸連の中には、「蕎麦連」(石綿道場主・白石幹事長)、「投扇連」(仲下幹事長・坂本&塩出代行)や「高円寺江戸学講座連(仮称)(圓山塾長)」など(「パソコン塾(渡辺塾長)」はお休み中)があるが、江戸連メンバーを核にしながら、周辺の人々をも巻き込んでそれぞれ活発に活動を行っている。大きくなり過ぎた江戸連では、なかなか得られない人と人との親密な交流が魅力的である。高円寺の喫茶店での江戸学講座は江戸連会員が講師になり、江戸を共通のテーマにして若者と交流できる貴重な場になっている。また、投扇興の後で参加者が交代で担当している「江戸雑学講座」もすっかり定着してきている。

(3)機関誌10号発刊

NPO 江戸連活動の特徴付ける大きな柱になっている江戸連機関誌は、節目の10号を発刊することができた。編集を担当した長谷田・佐原理事や池田・篠崎氏は無論のこと、原稿書きや機関誌販売に協力して下さった会員の皆様方に深く感謝する。記念号ということで、江戸連としても大奮発し、カラーを入れページ数を増加し、また発行部数も例年より200部増やし1400部としたが、お陰様で大好評で、在庫の心配はなくなった。

(4)江戸連ホームページの整備

ホームページの整備を年度当初の課題として掲げていたが、担当の渡辺理事が本業で忙しくなりすぎたこともあって実現できなかった。それでも、ホームページを通じて機関誌の申込みや問い合わせが数件あり、機関誌約20数冊を販売することだできた。ホームページは江戸連と外部とを結ぶ大きな役割を持っていることから、最低限のメッセージは伝えていきたい。

2. 平成26年度決算(別紙)

第二議案 平成27年度事業計画と予算

1. 事業計画

(1)講の企画

平成27年度についても、「江戸歩き」「江戸遊び」「江戸学び」の三本柱に沿った講を企画していきたい。

当面の講の企画は次の通りである。

4月(卯月)講:4月25日藤澤茜氏講演「(江戸中心の)浮世絵の歴史」

5月(皐月)講:5月2日「上野の山に江戸を訪ねる」(松本・圓山理事担当)

6月(水無月)講:6月20日道明三保子氏講演「日本服飾史における帯締めと組紐の歴史」徳新館

8月(葉月)講:日程未定・中城正堯氏「江戸時代の子供遊び百景(仮称)」

7月及び9月以降はまだ未定であるが、「歌舞伎鑑賞」(石垣理事担当)・「江戸防御の要・八王子の歴史旅」(新実代表担当)・「江戸の芸尽くし」・「大名庭園内の植物観察」・「七福神巡り」などを企画している。講については、会員の要望や講師紹介などを受けて企画していくので、積極的な提案をお待ちしている。

(2)「連内連」の活動

引続き、「蕎麦連」「投扇連」「高円寺江戸学講座連」など多様な「連内連」活動を推進したい。

(3)ホームページの整備

講のお知らせ・機関誌の発刊状況・事業報告・入会の問合せなど、NPOとしての最低限のメッセージは伝えるように体制を整備したい。パソコン技術を持った会員の協力を強く訴える。

(4)機関誌11号の発刊

機関誌10号は記念号として、江戸連会計から特別支出をして発刊したが、11号は従来ベースの機関誌として発刊する。会員の皆様には、引続き原稿協力および販売協力(一般会員は最低5冊できれば10冊。役員は最低20冊できれば30冊)をお願いする。

2. 平成27年度予算(別紙)

第三議案 役員の改選

今年度は役員改選の時期である。二期4年間に亘り代表理事を務めた新実氏がその職を退き、その後任には圓山事務局長を。また新しい事務局長には、白石理事をそれぞれ推薦する。新実氏には引き続き理事(企画担当)として残って頂くほか、吉田(誠)・野津・松本・石垣・長谷田・渡辺・山下・寿々方・佐原・村岡氏についても理事をまた監事には林氏を、それぞれ引続き推薦する。会計担当理事は、これまでご大変ご苦勞頂いた松本氏に代わって村岡理事に主として担当して頂くこととする。ただ、会計担当の負担軽減化のため、①江戸連として行う懇親会は4月・12月だけに止め、それ以外は有志に委せる。②講欠席による参加費の繰延は行わないなどの措置を講じることとしたい。

第四議案 議事録署名人の選定

議事録署名人として、議長・圓山・村岡氏の3人を選定することとしたい。

以上

平成26年度 江戸連「講」の実績

4月19日(土)卯月講	岡安顧問講演「家康のあれこれ」	参加者 32人
5月24日(土)皐月講	「江戸の水運巡り～日本橋から中川船番所」(担当圓山理事)	39人
6月21日(土)水無月講	白石広子氏講演「日本料理を考える～江戸時代からの伝統」	36人
7月19日(土)文月講	陣内氏講演「二つの水都～ベネツィアと江戸東京」(担当水越会員)	44人
8月24日(日)葉月講	「納涼歌舞伎鑑賞」(担当石垣理事)	55人
9月20日(土)長月講	横本氏講演「古写真に見る江戸の面影～モースコレクションから」 (担当圓山理事)	27人
10月18日(土)神無月講	「安宅丸乗船と増上寺・芝周辺散策」(担当白石理事・新実代表)	33人
11月18日～20日霜月講	「島原・雲仙・大村の歴史旅」(担当圓山理事)	22人
12月6日(土)師走講	「江戸の芸尽くし」(担当白石理事・投扇連)	54人
1月10日(土)睦月講	「日本橋七福神めぐり」(担当松本・長谷田理事)	40人
2月21日(土)如月講	森岡氏講演「大田南畝という快楽」(担当圓山理事)	27人
3月14日(土)弥生講	岡本氏講演と散策「江戸とモダンの歴史体験」(担当新実代表)	30人

平成26年度 特定非営利活動に係る事業 会計収支計算書

平成26年4月1日から 平成27年3月31日まで (単位:円)

特定非営利活動法人 江戸連

科 目	内訳明細	小計	合計
I 収入の部			
1 会費・入会金収入			
年会費	235,500		
入会金	15,000		
会費合計		250,500	
2 事業収入			
講収入	767,000		
冊子売上	79,900		
事業収入合計		846,900	
3 雑収入		9,446	
4 預金利息		370	
5 預り金		31,482	
当期収入合計 (A)			1,138,698
前年度預り金			-31,500
前記繰越収支差額		1,511,210	
収 入 合 計 (B)			2,618,408
II 支出の部			
1 管理費			
通信費	39,450		
消耗品費	29,449		
交通費	57,378		
ドメイン維持管理費	15,180		
振込手数料	3,024		
雑支出	61,344		
		205,825	
2 事業費			
講支出	717,257		
冊子製作 10号	500,784		
事業費合計		1,218,041	
3 会議費		91,929	
4 交際費		38,120	
当期支出合計 (C)			1,553,915
当期収支差額 (A)－前年度預り金－(C)			-446,717
次期繰越収支差額 (B)－(C)			1,064,493

貸借対照表 (平成27年3月31日現在)
(単位:円)

資 産 の 部		負 債 ・ 剰 余 金 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
預金(ゆうちょ銀行)	961,934		
預金(三井住友銀行)	36,703		
現金	65,856		
		次年度繰越剰余金	1,064,493
合 計	1,064,493	合 計	1,064,493

平成27年度 予算案

(単位:円)

科 目	予 算	備 考
前年度繰越金 (A)	1,064,493	
I 収入の部		
1 会費・入会金収入		
会費	222,000	@¥3,000 × 68 @¥2,000 × 9
入会金	10,000	@¥5,000 × 2
2 事業収入		
講収入	800,000	
冊子売上	360,000	@ ¥ 300 × 1200冊(1032冊売約)
小計	1,392,000	
前年度預り金	-31,482	
(B) 合計	1,360,518	
II 支出の部		
2 管理費		
通信費	40,000	
消耗品費	30,000	
交通費	57,000	
ドメイン維持管理費	25,000	
ホームページ維持管理費	25,000	
振込手数料	3,000	
小計	180,000	
2 事業費		
講支出	800,000	
冊子製作 11号	330,000	印刷¥180,000 組版¥30,000 編集製作費 ¥ 30,000 × 4名
小計	1,130,000	
3 会議費	70,000	
4 交際費	40,000	懇親会講師参加費負担
5 予備費	20,000	
(C) 合計	1,440,000	
次年度繰越金 (A+B-C)	985,011	